

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2026年 第28週（7月6日～7月12日）

今週のコメント

～手足口病～ 手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

手足口病 警報レベル超えで増加続く

第28週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は3,287例であり、前週比16.4%増であった。定点あたり報告数の第1位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症の順で、定点あたり報告数はそれぞれ8.22、4.09、2.37、1.75、0.50である。

手足口病の報告数は前週比38%増の1,487例で、北河内17.45、南河内10.60、中河内9.11、大阪市北部8.23、堺市7.82であった。11ブロックすべてで、前週より増加した。

感染性胃腸炎は2%減の740例で、中河内6.16、南河内5.67、北河内5.23である。

ヘルパンギーナは11%増の429例で、泉州4.15、中河内3.21、北河内2.68であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は5%減の317例で、北河内3.45、大阪市東部2.55、中河内2.32である。

RSウイルス感染症は86%増の91例で、泉州0.90、堺市0.82、南河内0.73であった。

新型コロナウイルス感染症は35%増の384例で、定点あたり報告数は1.35である。北河内2.81、南河内2.00、中河内1.55、泉州1.42、堺市1.12であった。

急性呼吸器感染症（ARI）は9%増の11,079例で、定点あたり報告数は38.87である。南河内50.04、北河内49.06、大阪市南部47.04、中河内44.07、大阪市北部39.40であった。

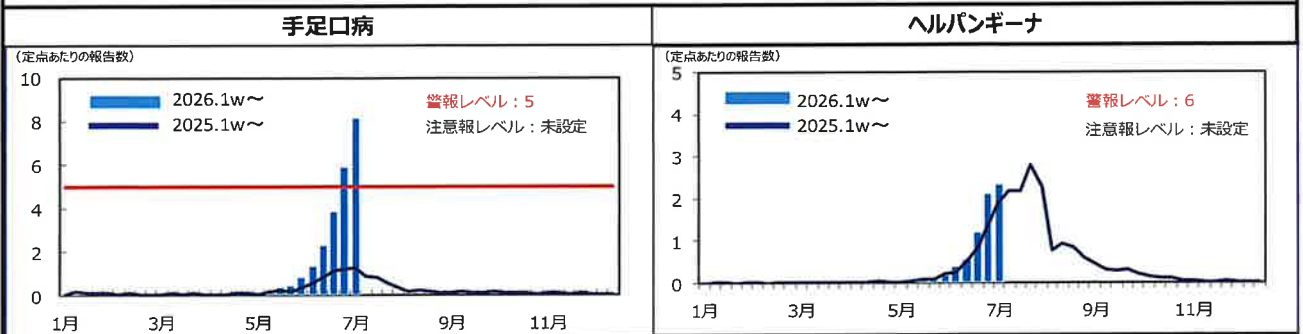


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2026年 第28週7月6日～7月12日）

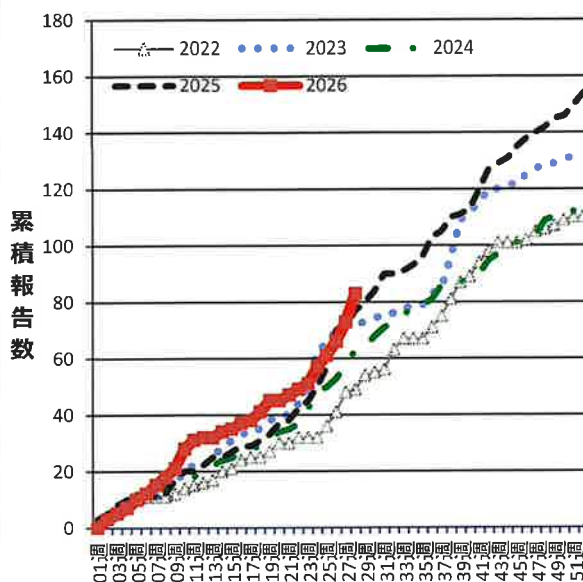
第28週 の順位	第27週 の順位	感染症	2026年 第28週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2025年 第28週の 定点あたり 報告数	2026年第28週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	手足口病	8.22	38%増	1.26	1歳_43%
2	2	感染性胃腸炎	4.09	2%減	5.01	1歳_17%
3	3	ヘルパンギーナ	2.37	11%増	1.92	1歳_33%
4	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.75	5%減	1.44	5歳_16%
5	8	RSウイルス感染症	0.50	86%増	0.37	1歳_44%
参考		新型コロナウイルス感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	1.35	35%増	2.02	10-19歳_32%
参考		急性呼吸器感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	38.87	9%増	37.98	1-4歳_49%

各疾患の詳細は、大阪府感染症情報センターホームページ（定点把握疾患、疾患別情報、病原体検出情報）をご覧ください。

～レジオネラ症～ 大阪府では2026年第28週時点で83例と、過去5年同時期と比べ最も多い

レジオネラ症

レジオネラ症（国立健康危機管理研究機構）
レジオネラ症（大阪府感染症情報センター）



注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ「[週報](#)」>全数把握疾患 をご覧ください。）

[illegible]

(2026年7月14日 集計分)